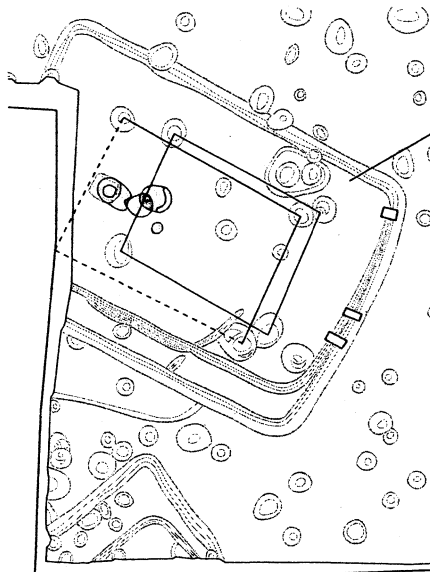
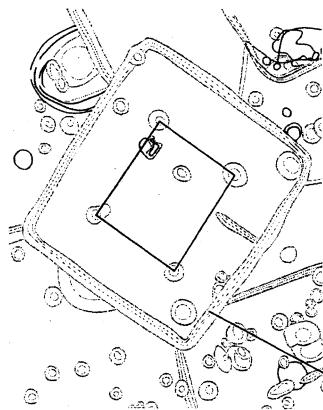
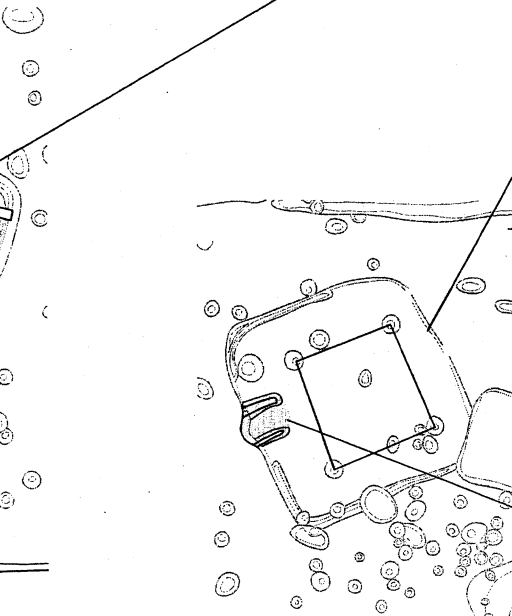




■弥生時代 (1 世紀) の竪穴建物
平面形：長方形 (5.2m×7.0m)
周溝：調査区外を除き全周
柱穴：長方形配置の四本柱
土坑：無
火処：北側主柱穴間に二ヶ所の炉跡
主な遺物：甕、やじり
特記事項：壁溝が二重にまわわる様相は建て直しの跡と考えられる。
また、南側の柱穴間に位置する地床炉の上面には建て



■古墳時代 (4～5 世紀) の竪穴建物
平面形：方形 (4.7m×5.2m)
周溝：全周
柱穴：方形配置の四本柱
土坑：南辺
火処：東一北側柱穴間に炉跡
主な遺物：高坏
特記事項：西面から南面のほぼ中央付近に間仕切り溝と
思われる溝状の遺構を検出した。



■古墳時代 (7 世紀) の竪穴建物
平面形：方形 (4.7m×4.5m)
周溝：建物遺構の南東辺、及びカマドの煙出部以外で検出
柱穴：方形配置の四本柱
土坑：カマドの裏側
火処：北辺中央部にカマド
主な遺物：製塩土器
特記事項：カマドの床土上面、及び崩落土 (構築材) から製
塩土器脚部 2 6 団体、坏部 1 団体が出土した。

B 区



■弥生時代 (2 世紀) の竪穴建物
平面形：長方形 (5.7m×4.2m)
周溝：全周
柱穴：方形配置の四本柱
土坑：土壇状遺構内部
火処：西側主柱穴間に炉跡 (東側柱穴間にも炉跡を有す可能性が
あるため補足調査を行う。)
主な遺物：甕、高坏
特記事項：南面中央部に馬蹄形を呈する土壇状遺構を検出。また土壇状
遺構上左右に 2 つの小ピット、内部に土坑、小ピットを検出
した。

遺構埋土の下層面は炭化粒、焼土を多く含む土層である、ま
た床面は広範囲に焼熱し硬化した部分が散見される。土壇状
遺構内部の土坑からは竪穴建物の構築材と考えられる焼熱し
硬化した土の塊を検出した。こうしたことからこの竪穴建物
は火災に遭った可能性がある。

※こちらら当日配布資料には今現在の調査成果を記載しています。今後の発掘作業、
調査を経て、この資料記載の調査成果内容を変更する場合があります。